

モデル事業名	房総横断鉄道沿線のエコミュージアム環境整備
活動団体名	洸楓座
ホームページ	http://www.kofuza.jp/kofuza/
所属/ 担当者名	佐藤建吉 (kofuza@gmail.com)
連絡先	090-1268-5882、kofuza@gmail.com
活動地域	千葉県いすみ市、大多喜町、睦沢町、市原市

● 活動地域の概要

- ◇ 房総横断鉄道は、小湊鉄道 (39.1km) といすみ鉄道 (26.8km) の合計 65.9km からなる千葉県房総半島中央内房と外房をつなぐ非電化ローカル鉄道である。前者は私鉄、後者は第3セクター方式の株式会社である。
- ◇ 房総横断鉄道は、いすみ鉄道と小湊鉄道が相輔相成して成し得る観光資源であり、域内公共交通であるが、少子高齢化、モータリゼーションの影響で、通学・通勤利用者の減少により、鉄道専門のいすみ鉄道は、存続が危ぶまれている (通学定期収入は20年度には前年比85%に低下)。
- ◇ そのため、いすみ鉄道は、地域や会社も一体となって①観光乗客の増加と②非鉄道営業による収入増加に向けて努力しているが、なお、好転するにはいたっていない (20年度上半期の鉄道事業で3700万円の損失)。
- ◇ 鉄道存続には、観光入込み数の増加、物産グッズ販売などによる収益増加が必要である。それには、地域や鉄道が、話題づくりをして、観光客を呼び込むことのほか、地域民自身が鉄道に関心をもち、地域を再生する気概をもつことが必要である (千葉デストネーションキャンペーンでは、前年比で約130%に増収)。
- ◇ 観光力・地域力の向上を支援するため、新企画のモデル事業として20年度の「房総横断鉄道沿線のエコミュージアム環境整備」を実施した。エコミュージアムは、観光客に満足感を与える経済活動の一つでもある。そうした展開が必要な状況にある。



【房総横断鉄道路線図＝小湊鉄道＋いすみ鉄道】

【YahooMap から作成】

## ● 活動地域の課題

- ◇ 少子高齢化は、いすみ鉄道の本社のある千葉県立大多喜高校の志望者を減少させ、クラス数の減少により通学定期収入を85%に低下させている。
- ◇ いすみ鉄道再生委員会等で協議されている施策には、鉄道グッズ、寄付金・ファンクラブ、運賃値上げ、などが盛り込まれているが、鉄道の利便性（定時性、輸送能力、環境性）を理解し、その観光価値を盛り上げる必要がある。
- ◇ しかし、運賃値上げは単純な対策であり、さらに客離れを誘う可能性がある。したがって、地域の活性化、すなわち経済的な元気力、産業誘致・開発、定住などを図ることが必要である。それには、地域力アップ、歴史・文化、そして自然の魅力を有効に情報発信し集客し、かつ満足感を与え創ることが要である。
- ◇ そうした展開を実際に行う人材（人財）とその組織、しくみづくり、コミュニティづくりが、まさに課題である。地域に人財としての人材、地域の人材を人財にする必要がある。以下で述べる例えば、「エコミュージアム・キュレーター、コンシェルジュ、ガイド」としての人材（人財）である。

## ● 活動の内容

・平成20年度

### ◇ 歴史等調査

歴史建築が専門のモリスマーティン教授が担当し、5日間の現地調査をおこなった。調査結果に基づき地元での講演のほか、千葉大学でのシンポジウムでの講演を行い、いすみ市郷土資料館にてパネル展示を行った。

### ◇ 鉄道施設デザインコンセプトづくり

トランスポーテーションデザインが専門の釜池光夫教授が担当し、3日間の現地踏査を行い、沿線での取材、写真撮影、資料収集を行った。また、現地および学生によるアンケート調査を行い、因子分析により、改善のための主要概念とクラスター分析によるグループ抽出を行った。小湊・いすみ両鉄道の駅舎に対するデザインコンセプトを提言した。また、地元民への周知のため、いすみ市郷土資料館にてパネル展示を行った。

### ◇ エコミュージアムのための環境整備

発表者が主体となり、多くの講師陣からなる「地域再生システム論」の講義と演習を行い、また地元関係者とともにイベント、討論会を行った。「地域再生システム論」は、10月から1月まで5回集中的に開講し、千葉大学学生のほか一般市民が受講し、最終日には房総横断鉄道とその地域再生に向けた提案を行った。その取り組みのbefore&afterは読売新聞全国版に掲載された。学生による活性化提案は、いすみ市郷土資料館にて24面のパネルとして展示された。

別途に、エコミュージアム体験のツアーを、一宮・睦沢地区で開催し、小学生から一般まで参加した。講演会后にバスツアーを行い、その後には80名規模の意見討論会を行った。

### ◇ 広報イベント

この活動は、<http://www.kofuza.jp/kofuza/>で紹介するとともに、地域内のエコミュージアムマップとしていすみ鉄道・小湊鉄道沿線マップ（A3サイズ、両面）を日本語版、英語版、スペイン語版を作成した。

市民参加公開行事として、講師・田辺一鶴氏による「講談列車」を3月1日に小湊鉄道を始発として運行し、講談による沿線の話題を歴史物語として知れるイベントを開催した。

さらに、いすみ市郷土資料館においては、地産品として大多喜の竹製科学教材を開発し展示した。さらに、いすみ鉄道の上下線（大原～中野駅までの全線）をビデオ撮影し、モニターで常時再生し、観光客に見る機会を演出した。

・平成21年度

### 活動1：エコミュージアム・キュレーター、コンシェルジュ、ガイドの養成と実践、発信

- ① エコミュージアムセミナーの実施：地元資源との突合せ、展開表示の企画を立案する。
- ② エコミュージアム・キュレーターの選定及び・エコミュージアム・コンシェルジュの養成と選定：地元の博物館学芸員（県立中央博物館大多喜城分館、いすみ市郷土資料館、睦沢町歴史民族資料館市原市埋蔵文化財調査センターほか）の学芸員の協力を得て、地域歴史文化資源についての収蔵展示、調査、整理保存資料などに基づいて、エコミュージアム活動の実施者としてのコンシェルジュと、現場案内を担うガイドの人的確保、育成を行う。
- ③ 房総横断鉄道沿線の文化財を、鉄道を利用して探訪することを、コンシェルジュとガイド自身が、観光人の立場と視点で踏査する「エコミュージアム発見ツアー」を行い、新しい切り口の観光客向け素材（パンフ）を作成する。

### 活動2：Win-Win観光の具現化と発信

- ① 総横断鉄道沿線地域の経済的活性化をポイントカード制度、およびご当地グッズの導入により、相互満足Win（地元側）-Win（観光客側）と先進性を実現する。全国展開しているサイモンズ・ポイントカードを沿線地域の鉄道、商工会、ホテル・旅館組合、病院等に導入し、地域経済の活性化、ポイントカード利便の利便性向上を図る。
- ② 地元産物を生かした産品・商品の開発を行い、ご当地もののグッズとしてリリースし、普及させる。高校生向け可搬テーブル（スマートデスク）の設計と製作を行う。また地産品としていすみ鉄道応援酒『鉄の道』をリリースする。

### 活動3：エコミュージアム・アクセスモビリティの確保

- ① 房総横断鉄道降車後、観光客・来訪者が、自身でまたはガイドとともに見所の目的地までアクセスできるように軽自動車の電気自動車を導入し、利便性（モビリティ）を確保する社会実験を行い、アンケート調査を行う。
- ② 電気自動車による試乗会の結果を踏まえ、アクセスモビリティの確保（電気自動車タクシーの導入）に向けた座談会を開催する。

#### ● 活動の成果

・平成20年度

（活動の成果、地域内での反響・効果及び周辺への波及効果等について記入）

◇20年度の活動は、いすみ地区、一宮・睦沢地区、そして小湊沿線の市原市の地区で行われたが、実施主体の洗楓座がその地域外の組織であるとの見方があり、他人視する傾向があったといえるが、その後活動の進捗とともに好意的に受け入れられることとなった。それは、千葉大学という県内大学の関係としての影響も無視できないが、ローカル鉄道の存続に関する房総横断鉄道としての課題が共通の問題として認識された結果ともいえる。これは、新しいコミュニティの創生、あるいはその兆しともいえる。

◇洗楓座の活動が、地元紙や中央紙（読売新聞、写真下・左）などマスコミに取り上げられ、その展開が認識されてきたことにもある。同時に、いすみ鉄道自体がそれにも増して、マスコミや話題を提供していることにおいて、共鳴したともいえる。

◇「エコミュージアム」は「街が丸ごとミュージアム」と同じ概念であるが、「エコミュージアム」と呼ぶことにおいて、「エコ」「ミュージアム」もよく知られた言葉であるので、さらに気を引き、考え、アテンションを与える機会を作り出している（意見討論会、写真下・右）。これらは、当初に想定したことであり、新しいムーブメントを作り出している。

◇「房総横断鉄道」は、「房総横断田園鉄道」としての具体化として「エコミュージアム」とともに、この地域、この鉄道を対象とした名称として定着させ、ローカル鉄道の持続性とその意義、時代性を多くの人に理解していただき、地域が鉄道を支え、鉄道を機軸とした地域づくり、観光力・地域力向上を進めたい。

◇さらに、3月には夷隅地域観光振興連絡協議会研修会の行事が同協議会主催で開催され、千葉県や地元市町役場、観光協会、農林・水産漁業組合などのメンバーが集まる席で、報告者が「地域資源を活かした無から有を生む観光振興」と題して、エコミュージアムを展開することについて講演する機会を得て、この事業が、地元から受け入れられた証と言える。



読売新聞 (2009. 1. 20)



エコミュージアム体験ツアーでの意見討論会 (2008. 11. 13)

・平成21年度

### 活動1：エコミュージアム・キュレーター、コンシェルジュ、ガイドの養成と実践、発信

◇「地域を活かすエコミュージアム」のフォーラム実施 (2009年11月14日)

「エコミュージアム」という言葉の定着のため、日本エコミュージアム研究会の会員の参加を頂き、また地元での実践例、活動例を紹介し、エコミュージアムを理解するフォーラムを地元において開催した。このフォーラムではさらに一歩進めるため地域にアートを導入するため日本建築美術工芸協会のメンバーによる実践紹介が行われた（写真下、左）。これらの展開は、総勢70名を超える参加者があり、またいすみ鉄道社長の営業展開もプレゼンされ（写真下、右）、

ローカル鉄道と地域活性化の総合的な意見交換の場となった。



建築美術工芸協会のプレゼン



いすみ鉄道社長のプレゼン

### 活動2：Win-Win観光の具現化と発信

◇いすみ鉄道支援のための地産品として『鉄の道』という地酒がリリースされた。これは、全国のローカル鉄道を支援するモデル的なものとして企画され、鉄道ファン、日本酒ファン、書道ファンがともに協同してローカル鉄道を応援する仕組みとして、関心もたれている。

◇サイモンズカードのポイントカードの導入については、2月12日に説明会を開催し、いすみ鉄道と沿線商店から行われる予定である。東京在住者のほか全国からの環境客と地域住民の双方の利便性と活性化への弾みがつくことが期待される。まさにwin-winの関係を作り出そうとしている。

『鉄の道』のリリース

### 活動3：エコミュージアム・アクセスモビリティの確保

◇電気自動車の試乗会を社会実験として11月10日～14日にわたり行った。10日には、オープニングセレモニーを行い、観光客、住民、鉄道会社、町役場などの連携を深めた。試乗者からは、アンケート調査により、当地へのアクセスの方法、訪問動機・目的、電気自動車への関心と乗り心地、電気自動車導入への意見などを収集した。

◇その結果を踏まえて、2010年1月15日には、沿線での電気自動車によるタクシーの導入に関する座談会を開催した。その席には、全国で最初に電気自動車タクシーを導入したタクシー会社社長、電気自動車開発会社、いすみ鉄道会社、小湊鉄道会社、地元県市町からも参加していただき、電気自動車の現状と利点や課題について意見交換した。



オープニングでのテープカット



電気自動車のスタート

・ 課題

これまでの活動を通じて、わが国の今日の経済状況、地方の疲弊、地域差などを明確に感じた。しかし、千葉県房総地域は、東京に隣接しているので、有利な地理的ある。なお一層の展開が必要であるが、あと一歩であるといえる。住民も課題を抱えながら従来の慣行に従い、ただ忙しく活動している現状にあるが、そうした活力と意思をつないでいく人材（人財）が必要である。

そのためには、地道な取り組みのほかに、従来にこだわらない発想の転換（企画）と、人のつながり（連携）、地元根ざした活動（共感）が必要である。エコミュージアム環境整備は、そうした意味で、地域資源の再発見と、それによる自信と誇りの定着、それが来訪者を歓待する気持ち（おもてなし）へと連鎖し、豊かな地域を醸成できる活動である。本事業の主題は、「鉄道を主軸とした地域づくり」、同時に「地域が鉄道を守る気運」を育むことにある。

報告者は、地域活性化は、「地域 re づくり」と、地域活性化のための「状況づくり」というキーワード掲げている。繰り返しになるが、そのためには、担い手としての人材とその核になる人財の養成、すなわち、ひとづくりが要点である。それは「新たな公」の原点であり、当地での気運の形成は、あと後一歩であり、現地密着の活動が課題といえる。具体的には、大学のサテライトラボ、ワークプレイスを現地に作るなどが効果的であると考えている。そのための、政府や役所の継続した支援と協力を望むものである。

それが将来につながる地域再生、地域活性化を、地域と人、そして歴史と風土、特質を活かした経済・観光・エコミュージアムの達成につながるといえる。

・ 展望

本事業では、残された時間を、鉄道の魅力づくり、地元高校生の誇り醸成、経済活性化、地元の特徴明示を進めたい。同時に、それらを例示、呈示しながら、担い手の養成を図りたい。具体的には、

- ① 鉄道利用の利便性向上 ⇒ アクセスモビリティの確保
- ② 列車内の時間空間活用 ⇒ 特に通学高校生への修学環境の改善（スマートディスクの導入）
- ③ 全国共通ポイントカードの導入 ⇒ サイモズンカードの導入
- ④ 地元文化財の明示と周知 ⇒ 文化財・エコミュージアム発見ツアー
- ⑤ 地元食材、食膳の提示 ⇒ 食のマップ作成



ローカル鉄道の過去-現在-未来